＜平成２７年１０月３０日発行　足立区立梅島小学校：学校だより１１月号＞

梅　島　小　だ　よ　り

「まねをする教育」と「まねをしない教育」

校長　江原　敦史

教育には２種類あります。「まねをする教育」と「まねをしない教育」です。
私達が何かを身に付ける際は、何事もまねから始まります。
私達は言葉を覚える時に、親が話す言葉を自然にまねしながら習得していきます。
ほかにも、例えば、伝統的な技術の伝承なども、最初は師匠の技をまねするところから始まります。
この「まねをする」ことについて、興味深いお話を伺うことがありました。
先日、学校公開週間のときに、日本画家の佐藤平八先生が、６年生のみなさんに友禅染の体験授業をしてくださいました。（その時の様子は、学校ホームページの校長日記に掲載しています）
当日は、佐藤先生とともに、お弟子さんが２名一緒に来てくださって子どもたちへの指導を親身になってしてくださいました。
授業後に佐藤先生にいろいろなお話を伺いました。
その中で、「お弟子さんの中にも、伸びる人と伸び悩む人がいる」というお話がありました。
どういう人が伸びるかというと、弟子に入る前に日本画などの経験がまったくなく、すべて初めて取り組むような人なのだそうです。
このお話は意外でした。少しくらい経験があるほうが、有利なのではないかと思ったからです。
佐藤先生はその理由を次のようにお話ししてくださいました。
「それまでまったく経験がない人は、こちらが教えることを素直に一生懸命吸収しようとするのです。だから、こちらの意図や思いもしっかり伝わり、その後に成長する土台がしっかりと築けます。一方、少し経験があるような人は伸びません。なぜかというと、こちらが一生懸命伝えることを素直に受け取れないのです。『それは知っています』『それはこういうことなのではないですか？』というように、こちらが伝えたいことを素直に受け入れなかったり、自分で勝手に解釈して受け取ったりしてしまうのです。学ぶということはまねから始まります。伸びる人は素直にまねができる人なのです」
このお話を聞いて、小学校での教育も同じだと思いました。
素直に謙虚に学ぶ子は、どんどん伸びていくことを、経験しているからです。

芸術の世界に限らずどの世界でも、まねをする段階でとどまっている限り、一人前にはなれません。
まねをして身に付けた基本的なことを土台として、自分のオリジナリティを出していくことが必要です。
ここに、「まねをしない教育」が必要になります。
佐藤先生は、基礎がしっかり身に付いたお弟子さんには、オリジナリティが発揮できるよう、その人のいいところを伸ばすような指導をされるそうです。
この「人とは違う点を伸ばしていくこと」が「まねをしない教育」です。
この点も、私達学校教育に携わる者は、しっかりと肝に銘じなければならない点だと考えます。
「まねをする教育」をしっかりと行った先に、「まねをしない教育」を行っていく。
どちらも大切な教育です。
この点をしっかりと踏まえて、日々の教育活動を充実させていきたいと思います。